

第2回環境セミナー 当日回答できなかった質問への回答

講演2：市内河川の豊かな水環境と水生生物について

	質問内容	回答
1	底生生物の同定には専門性が求められると思いますが、人材育成等はどのようにされているのですか？	同定作業は専門性が高く、繰り返し作業を積み重ねることによって習得されるものです。本市では実務経験を通じて育成を行っております。調査で採取した試料を用いて、経験を積んだ先輩の職員が同定手法のマニュアルに基づいて新任職員を指導し、新任職員の同定結果について先輩職員の確認を受けることを繰り返すことにより、技術の向上を図っています。
2	2枚貝による水質浄化は非常にimpressiveですが、そのために当の2枚貝自身は「汚染」されたり病気になったりしないのでしょうか？	アサリやシジミなどの貝にとって、水中の汚れの原因となる有機物の多くは栄養素となるため、自身の生育にとって問題になることはありません。しかしながら、水中の有機物が多すぎたり自身に有害な成分の存在下では、それが原因で死んでしまうなど悪影響を及ぼすこともあります。
3	官民協働の環境政策は例えば何がありますでしょうか。	本研究所の水環境分野で近年行っている官民連携の研究としましては、東扇島東公園周辺海域における生物相の調査及び海洋プラスチックごみや温暖化などの影響に関する調査があります。その他の共同研究の情報も含めまして、URLを次のとおり掲載いたしますのでご参照ください。 https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000124616.html
4	とある横浜市内の公演で多摩川のボラが増えたのは川崎市の下水排出に原因があるという発言があり、ショックでしたが、ボラの増加について、何か研究されてますでしょうか？	下水排水とボラの増加に関連があるというお話は初めて聞きました。本市の調査では、ボラは多摩川の河口付近を中心に生息していることがわかっておりますが、ボラの生息数に関する調査研究は行っておりません。

講演3：市内河川中の化学物質について

飛行時間型質量分析装置を用いたスクリーニング分析

	質問内容	回答
5	水質異常や水質事故等で、TOFMSでの分析を活かされた例などありますか？	水質事故で使用した例はまだありませんが、道路植栽への除草剤の使用が問題となった際には、成分の有無を確認するため、土壌サンプルのTOFMS分析を行いました。
6	分析の流れで、カートリッジがカラムに相当するものですか？	カートリッジは前処理に使っているものであり、カラムとは別の機材です。資料の【分析の流れ】のページでは、右下「分析する」のところにカラムも含まれています。今回は市民セミナーということで、ふだん分析等になじみのない方もいらっしゃることを想定してできるだけ簡単に伝えることを優先し、カラムについてはお話ししませんでした。

※講演1と講演4は、回答できなかった質問はありませんでした。